

第2章 数値から見る湯河原町

1 人口の状況について

1) 総人口と総世帯数の推移

本町の総人口は、平成30年1月1日現在、減少を続けている。世帯数は増加する一方、1世帯あたりの平均世帯人数は減少している。

【総人口と世帯数】

(単位:人、世帯)

区 分	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成30年
総人口	27,717	28,389	27,721	27,430	26,848	25,026	24,393
男性	12,922	13,123	12,817	12,660	12,370	11,556	11,324
女性	14,795	15,266	14,904	14,770	14,478	13,470	13,069
一般世帯数	9,723	10,515	10,465	10,793	10,972	10,724	10,851
平均世帯数	2.79	2.63	2.57	2.46	2.35	2.33	2.23

資料:国勢調査、神奈川県衛生統計年報

2) 年齢区分別人口の推移

年齢3区分の人口構造の推移をみると、年少人口、生産人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にある。

【年齢3区分の人口】

(単位:人)

区 分	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成30年
年少人口(0~14歳)	4,171	3,882	3,627	3,270	2,846	2,271	2,037
割合	15.0%	13.7%	13.1%	11.9%	10.6%	9.1%	8.4%
生産人口(15~64歳)	19,123	19,084	17,838	16,719	15,256	12,859	12,203
割合	69.0%	67.2%	64.3%	61.0%	56.9%	51.6%	50.3%
老年人口(65歳以上)	4,423	5,423	6,249	7,437	8,722	9,768	10,025
割合	16.0%	19.1%	22.5%	27.1%	32.5%	39.2%	41.3%
総人口	27,717	28,389	27,721	27,430	26,848	25,026	24,393

※年齢不詳を含む

資料:国勢調査、神奈川県衛生統計年報

3) 世帯構成の推移

世帯構成の推移をみると、一般世帯数は増加傾向が続いている。中でも、単独世帯、65歳以上の高齢単身者世帯の増加は大きく、高齢者夫婦世帯（夫65歳以上・妻60歳以上の夫婦のみの一般世帯）も増加している。

【世帯構成の推移】

(単位:人)

区 分	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
一 般 世 帯 総 数	9,723	10,515	10,465	10,793	10,972	10,724
うち、核家族世帯	5,468	5,808	5,956	6,065	6,035	5,815
割合	56.2%	55.2%	56.9%	56.2%	55.0%	54.2%
うち、単独世帯	2,576	3,083	2,943	3,237	3,539	3,740
割合	26.5%	29.3%	28.1%	30.0%	32.3%	34.9%
(再掲)65歳以上の高齢単身者世帯	728	957	1,038	1,355	1,716	2,092
割合	28.3%	31.0%	35.3%	41.9%	48.5%	55.9%
うち、高齢者夫婦世帯(夫65歳以上・妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯)	627	739	950	1,222	2,439	1,706
割合	6.4%	7.0%	9.1%	11.3%	22.2%	15.9%

資料:国勢調査

4) 出生の推移

神奈川県では、出生率は減少傾向にあるが、本町では出生数、出生率ともに、大きく減少している。

(単位:人)

区 分	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成30年
出 生 数	250	232	223	152	149	117	97
出生率(人口千対)	9.0	8.2	8.0	5.5	5.5	4.7	4.0
神奈川県	出生数	79,437	80,692	82,906	76,196	78,077	73,475
	出生率(人口千対)	10.0	9.9	9.9	8.8	8.8	8.2

資料:神奈川県衛生統計年報

5) 死亡の推移

死亡数、死亡率とも増加しているが、年齢調整死亡率は減少傾向となっている。

(単位:人)

区 分		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成30年
死亡数		255	285	293	336	381	392	399
死亡率(人口千対)		9.2	10.0	10.6	12.3	14.2	15.7	16.5
年齢調整死亡率 (人口千対)		6.31	5.78	5.13	5.16	4.41	4.11	3.76
神奈 川県	死亡数	39,543	46,507	50,539	58,801	67,760	75,762	82,336
	死亡率 (人口千対)	5.0	5.6	6.0	6.7	7.5	8.3	9.0
	年齢調整死 亡率(人口千 対)	5.7	5.2	4.7	4.3	3.9	3.5	3.9

資料:神奈川県衛生統計年報

※「年齢調整死亡率」とは、年齢が異なる人口集団の間で、年齢構成の差を取り除いて比較する場合に用いるもの。この表の数値は、人口千人当たりの割合。

6) 主要原因別死亡数の推移

主要死因別の死亡状況についてみると、悪性新生物の死亡数が増加傾向にあり、脳血管疾患の割合が減少傾向にある。

順位	平成7年			平成12年			平成17年		
	原因	死亡数	割合	原因	死亡数	割合	原因	死亡数	割合
1	悪性新生物	90	31.5%	悪性新生物	84	28.7%	悪性新生物	96	28.6%
2	脳血管疾患	46	16.1%	脳血管疾患	54	18.4%	心疾患	58	17.3%
3	心疾患	35	12.2%	心疾患	37	12.6%	脳血管疾患	50	14.9%
4	肺炎	34	11.9%	肺炎	36	12.3%	肺炎	33	9.8%
5	糖尿病	9	3.1%	不慮の事故	15	5.1%	自殺	12	3.6%

順位	平成22年			平成27年			平成30年		
	原因	死亡数	割合	原因	死亡数	割合	原因	死亡数	割合
1	悪性新生物	116	30.4%	悪性新生物	108	27.6%	悪性新生物	111	27.8%
2	心疾患	56	14.7%	心疾患	43	11.0%	心疾患	70	17.5%
3	肺炎	50	13.1%	脳血管疾患	33	8.4%	脳血管疾患	36	9.0%
4	脳血管疾患	39	10.2%	老衰	33	8.4%	老衰	29	7.3%
5	自殺	12	3.1%	肺炎	31	7.9%	肺炎	20	5.0%

資料:神奈川県衛生統計年報

2 特定健康診査、がん検診の動向について

1) 特定健康診査及び特定保健指導の状況について

① 特定健康診査について

メタボリックシンドローム予防のため平成 20 年度から特定健康診査及び特定保健指導が開始された。湯河原町国民健康保険加入者の特定健康診受診率は増加傾向にはあるものの、未だ高くはない。

※メタボリックシンドローム

内臓脂肪型肥満に加え、①脂質異常、②高血糖、③血圧高値のうち2つ以上あわせ持った状態をいう。それぞれの危険因子がまだ病気でない軽い状態であっても、重なることで、命にかかわる虚血性心疾患や脳血管疾患を引き起こすリスクが高くなる。

【特定健康診査等の受診状況】

(単位:人)

年度	特定健康診査(※1)		ご長寿健康診査(※2)	
	受診者	受診率	受診者	受診率
平成27年度	1,449	23.2%	972	22.4%
平成28年度	1,357	23.1%	1,067	23.4%
平成29年度	1,409	25.6%	1,165	24.6%
平成30年度	1,474	28.0%	1,319	26.7%
令和元年度	1,567	31.1%	1,621	31.7%

※1 特定健康診査

対象:40~74歳の国民健康保険加入者
内容:身体測定、血圧測定、検尿、血液・生化学検査、診察(医師の判断により心電図・眼底検査)

※2 ご長寿健康診査

対象:後期高齢者医療制度の加入者
内容:身体測定、血圧測定、検尿、血液・生化学検査、診察(医師の判断により、心電図・眼底検査)

② 特定保健指導について

積極的支援は6か月間に5回以上、動機付け支援は6か月間に3回の支援をそれぞれ行い、特定保健指導対象者の方が生活習慣を改善できるようにするものであるが、終了者が少ない。(単位:人)

年度	積極的支援		動機付け支援	
	対象者	終了者	対象者	終了者
平成27年度	36	0	146	17
平成28年度	32	0	111	5
平成29年度	29	10	122	8
平成30年度	31	10	143	24
令和元年度	26	6	144	19

※ 特定保健指導

対象:特定健康診査の結果、メタボリックシンドロームのリスクが高い(生活習慣病になるリスクが高い)と判定された方

内容:保健師・栄養士と、個別面談を実施する。個人に適した日常生活で無理なく行える具体的な健康づくりの方法を一緒に考えていく。積極的支援は「メタボリックシンドロームによる生活習慣病のリスクが重なっている方」、動機付け支援は「メタボリックシンドロームによる生活習慣病のリスクが出現し始めている方」が対象。

2) がん検診の受診状況について

肺がん検診の受診率は増加傾向にあるが、依然として低い水準にとどまっている。一方、女性がんについても、子宮頸がん検診、乳がん検診とも受診率が低迷している。本町の死因で悪性新生物（がん）が上位であることから、受診率がより向上することが望まれる。

【がん検診の受診状況】

(単位:人)

年 度	胃がん検診		肺がん検診		大腸がん検診	
	受診者	受診率	受診者	受診率	受診者	受診率
平成27年度	550	5.5%	1,008	10.2%	1,406	14.2%
平成28年度	404	4.1%	1,157	11.7%	1,147	11.6%
平成29年度	399	4.4%	1,322	14.3%	1,541	12.7%
平成30年度	373	3.8%	1,471	14.8%	1,667	16.8%
令和元年度	375	3.8%	1,468	14.8%	2,023	20.4%

年 度	子宮頸がん検診		乳がん検診	
	受診者	受診率	受診者	受診率
平成27年度	743	11.0%	529	9.8%
平成28年度	819	12.1%	406	8.6%
平成29年度	679	12.7%	413	9.1%
平成30年度	867	12.9%	560	10.8%
令和元年度	804	11.9%	452	9.1%

※ がん検診対象者と内容

① 胃がん検診

対象:40歳以上の男女
内容:バリウムを飲んだ後、レントゲン撮影をする。

② 肺がん検診

対象:40歳以上の男女
内容:胸部レントゲン撮影をする。問診の内容により痰の検査を実施する。

③ 大腸がん検診

対象:40歳以上の男女
内容:検便により、潜血がないかを調べる。

④ 子宮頸がん検診

対象:20歳以上の女性
内容:子宮頸部の粘膜を採取し、顕微鏡で検査をする。

⑤ 乳がん検診

・視触診とマンモグラフィー併用検診
対象:40歳以上の女性で年度内に偶数歳になる人
内容:乳房の視触診とマンモグラフィー(乳房のレントゲン撮影)を実施する。

・視触診単独

対象:40歳以上の女性で年度内に奇数歳になる人
内容:視診・触診による検査を実施する。

3) 歯科衛生の動向

① 3歳6か月児歯科検診のむし歯の状況

むし歯のない子どもの割合は平成29年度までは増加傾向にあったが、平成30年以降減少傾向となっている。また、むし歯がある子どもについては、う歯総本数が減少傾向にある。だが、むし歯のある子どものうち重度（B型+C1型+C2型）が約1～5割いる。

【3歳6か月児歯科検診の受診状況】

(単位:人)

年度	受診数(人)	むし歯のある人			むし歯のない人	
		人数	割合	う歯総本数	人数	割合
平成22年度	176	48	27.3%	198	128	72.7%
平成23年度	151	35	23.2%	167	116	76.8%
平成24年度	130	24	18.5%	101	106	81.5%
平成25年度	147	24	16.3%	118	123	83.7%
平成26年度	158	30	19.0%	48	128	81.0%
平成27年度	150	17	11.3%	37	133	88.7%
平成28年度	114	21	18.4%	83	93	81.6%
平成29年度	102	10	9.8%	24	92	90.2%
平成30年度	108	23	21.3%	70	85	78.7%
令和元年度	96	22	22.9%	34	74	77.1%

年度	むし歯のある人の型別分類(人)					むし歯のある人に対する 重度の割合	
	A型	B型	C1型	C2型	D型 (再掲)	B型+C1型+ C2型	D型
平成25年度	21	2	0	1	2	20.8%	8.3%
平成26年度	20	10	0	0	0	33.3%	0.0%
平成27年度	13	4	0	0	1	23.5%	5.9%
平成28年度	10	7	1	3	2	52.4%	9.5%
平成29年度	6	3	1	0	0	10.0%	0.0%
平成30年度	15	6	1	1	1	34.8%	4.3%
令和元年度	18	4	0	0	0	18.2%	0.0%

※むし歯の型別分類

- A 型: 上顎前歯部のみ、または臼歯部のみむし歯
- B 型: 上顎前歯部および臼歯部にむし歯
- C1 型: 下顎前歯部のみにむし歯
- C2 型: 下顎前歯部と他部位にむし歯
- D 型: 6本以上むし歯がある人

② 成人歯科検診の状況

成人歯科検診を平成 16 年度から 40～80 歳の 5 歳刻みの節目年齢の方を対象に受診券を郵送しているが、受診率は 1～5%程度に留まっている。受診結果をみると、要治療・精密検査が全体の 75%以上となっている。

令和元年度現在の現在歯数を平成 26 年度と比較すると、55 歳以上で 28 本以上の人の割合が増加し、19 本以下の人の比率が減少傾向にある。

【令和元年 成人歯科検診の受診状況】

年齢	対象者	受診者	受診率	判定結果						
				異常なし		要指導		要治療・精密検査		合計 人数
				人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
40 歳	217	9	4.1%	2	22.2%	0	0.0%	7	77.8%	9
45 歳	345	8	2.3%	4	50.0%	0	0.0%	4	50.0%	8
50 歳	383	13	3.4%	4	30.8%	1	7.7%	8	61.5%	13
55 歳	358	12	3.4%	1	8.3%	0	0.0%	11	91.7%	12
60 歳	347	12	3.5%	1	8.3%	1	8.3%	10	83.3%	12
65 歳	390	16	4.1%	5	31.3%	1	6.3%	10	62.5%	16
70 歳	541	29	5.4%	5	17.2%	2	6.9%	22	75.9%	29
75 歳	427	21	4.9%	2	9.5%	0	0.0%	19	90.5%	21
80 歳	346	13	3.8%	1	7.7%	2	15.4%	10	76.9%	13
合計	3,354	133	4.0%	25	18.8%	7	5.3%	101	75.9%	133

【現在歯数】

年齢	平成 26 年度				令和元年度			
	28 本以上	27～25 本	24～20 本	19 本以下	28 本以上	27～25 本	24～20 本	19 本以下
40 歳	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	88.9%	0.0%	11.1%	0.0%
45 歳	66.7%	11.1%	22.2%	0.0%	62.5%	25.0%	12.5%	0.0%
50 歳	75.0%	8.3%	8.3%	8.3%	69.2%	15.4%	15.4%	0.0%
55 歳	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	41.7%	33.3%	16.7%	8.3%
60 歳	28.6%	42.9%	21.4%	7.1%	33.3%	50.0%	8.3%	8.3%
65 歳	26.1%	47.8%	21.7%	4.3%	56.3%	18.8%	6.3%	18.8%
70 歳	25.0%	33.3%	29.2%	12.5%	27.6%	51.7%	17.2%	3.4%
75 歳	23.5%	35.3%	5.9%	35.3%	38.1%	23.8%	23.8%	14.3%
80 歳	0.0%	26.7%	20.0%	53.3%	15.4%	38.5%	15.4%	30.8%